

NPO法人 千葉自然学校 令和2年度 事業計画

この1年を振り返るとこれほどまでに自然の猛威を感じた年はありません。昨年9月と10月に発生した大きな2つの台風によって関東甲信東北地方など各地に甚大な被害をもたらしました。特に台風15号は、南房総半島を直撃し、私たちの施設に大きな影響を及ぼしました。

また、地球温暖化が原因かどうかわかりませんが、暖冬による雪不足でスキー場がオープンできずにホテルや旅館等から悲鳴が聞こえ、私たち自然学校もいくつかのスキーの事業を中止し、雪のあるスキー場を探すことに苦勞をいたしました。

さらに、2月、3月には、新型コロナウイルス感染症の世界的な蔓延によって、私たちの日常生活や経済活動にさまざまな影響を及ぼしています。まさに、予測不可能な時代に突入した感じがいたします。

しかし、また、人の結び付きや人の力の素晴らしさを感じたのもこの1年でした。台風被害で大房岬の自然公園は、木々がなぎ倒され、とんでもない状況のなかで、千葉自然学校につながるのある人たちが全国から集まり、災害ボランティアとしての活動が始まりました。700人を超えるボランティアのおかげで、倒木で悲惨な状況にあった、自然公園がみるみるうちにきれいに片付いていきました。完全に元通りになるには数年かかるとは思いますが、人々のつながりのありがたさを感じた数か月間でありました。

千葉自然学校は、次の3つのミッションを掲げています。体験活動を通じて、①だれもが人生を豊かに生き、支え合う力を育む。②地域の資源を保全・活用し、次代に引き継ぐ。③ネットワークを充実し、地域の活性化をめざす。この3つのミッションを実現すべく、千葉県の自然環境資源、人的資源、それぞれの体験活動団体が持っているハードやソフトの資源を活用しネットワークの価値を高めていきたいと考えています。

具体的には、千葉県立君津亀山少年自然の家については、来年、千葉県から指定管理の委託期間が最終年度を迎えます。この5年の成果を整理し、子どもたちの成長できるような新たな提案を準備し、次期も指定管理を受託できるよう努力いたします。また、自然災害を乗り越え、出来上がったネットワークを生かして、さらなる事業を展開します。

ヤックス自然学校と自主事業ですが、体験活動の重要性が叫ばれる中、少子化、学校カリキュラムの厳格化などの理由で参加者が減少している状況が続いていますが、事業内容の精査や安心安全な実施方法を検討しながら、さらに充実したプログラムを提供するよう努力いたします。

また、千葉県からの委託事業や企業からの研修事業、CSR活動事業、教育旅行など、時代や地域からの要望に合わせて、事業を展開してまいりました。来年度は、職員のパワーを収集させ、ニーズの掘り起こしや営業活動を積極的に行い、より多くの受託事業を実施していきたいと思っております。

千葉自然学校のネットワーク事業として、千葉県のアウトドア関連の団体や指導者の交流を目的とした「ちばアウトドアフォーラム」を企画しましたが、新型コロナウイルスの影響で延期となりました。来年度はさらに内容や規模を拡大実施し、ネットワークを強固なものにしていきます。

最後に、新年度は組織を一部見直し、退職した職員の補充などのため2名の新規採用及び内部の人事異動によって体制を整備しました。

また、各部門の事業については、それぞれの事業方針のもとに組織一丸となって運営して行きたいと考えています。

事業計画

■事業部

・CNS自主事業

1. 子どもから大人（シニア）を対象に各世代のニーズを捉え、地域特性と地域人材を活かした自然体験活動を展開
2. ひとりでも多くの子どもへ自然体験活動の機会を提供するため、新規エリアの学校や教育委員会と連携を図り、学校ポスト等を活かした広報活動を目指す
3. 安全で質の良い体験活動の提供を目指し、ボランティアリーダー組織化に向けた取り組み

・受託事業

1. 教育旅行、企業研修、CSR活動を中心とした新規事業開拓
2. ネットワークを活かした協働・連携による事業展開の充実
3. 企業に向けた情報発信の強化
4. 災害復興、災害教育、地域課題をテーマとした企業、学校向け事業提案

・千葉県立君津亀山少年自然の家（2016年4月～2021年3月末）

1. 地域や会員校との連携による生涯学習センターとしての機能充実
2. 利用者満足度向上によるリピーター団体の増加
（宿泊者数目標 22,500人）
3. 森を活用した冒険教育の場づくり
4. 宿泊型主催事業の実施等による閑散期利用の促進

・南房総市大房岬自然の家（2018年4月～2023年3月末）

1. 教育効果の高い自然体験プログラムの指導レベル維持
（宿泊者数目標 18,000人）

2. 地域連携と経済波及効果を意識した運営
 3. 効率的な施設の維持管理と運営
 4. 自然災害に備えた施設運営やボランティアネットワークの運営
 5. 地域の自然資源、人的資源を活用したエコツーリズム、ヘルスツーリズムの推進に寄与するプログラム開発と人材育成
- ・千葉県立大房岬自然公園（2017年4月～2022年3月末）
 1. 倒木等の台風被害の復旧を進めるとともに、樹齢の高い樹木を適宜管理して大房岬の次世代の森づくりを行う
 2. 深い森と豊かな海を有し、歴史ある戦争遺跡もあるというフィールドの特性を生かした事業の企画、運営
 3. 平日や冬期の対策を行う事によるキャンプ場利用数の拡大（キャンプ場テント張数目標 3, 500張）
 4. 地域団体の公園利用の拡大

■地域協働事業部

だれもが人生を豊かに生き、支え合う力を育む機会と場づくり。

健康長寿、社会と繋がる人づくりの活動、自立を目指した事業のために地域住民、NPO、行政、企業等と連携を図りながら実施する事業、県内体験活動事業者の発掘及び運営、事業、人材育成、ネットワーク等の相談窓口の開設。

・ちば・体験活動ネットワーク事業

ちばアウトドアフォーラムの推進組織として、ネットワーク担当理事、会員校理事、県内の若手事業者、個人で構成される実行委員会を立ち上げ、ネットワークの再構築を行なうための事務局機能を担う。

1. ちばアウトドアフォーラム事務局の運営
2. 県内の体験活動団体の相談窓口としての役割を担い、必要に応じた対応、助言を行なう

・古民家ろくすけ事業プロジェクト

当校のシンボルタワーとして維持継続するとともに、事業を以下のように行い、経営の自立を目指す。

1. 古民家ろくすけの企画・管理・運営ができる人材の育成
2. 農泊施設・ホームステイ施設としての利用の拡大
3. 米作り等体験農園の普及と地域産物の加工・販売、郷土料理の普及
4. フィルムコミッションの利用促進
5. 生きもの・環境保全活動の実施
6. 施設・設備の維持管理、補修の実施
7. 平群ツーリズム協議会と連携した地域活性活動

・体験農園 in 岩名

NPO、農業者、農業指導者、千葉シニア自然大学の協働による運営を継続する。

1. 都市部での農のある暮らしを提案。みそ作り講座、勉強会など付属イベントを開催
2. 助成金を活用した親子向け農育・食育推進活動の継続
3. 千葉シニア自然大学受講生、卒業生への農業実践の場の提供

■千葉シニア自然大学

千葉の里山里海の自然・地球・天文・健康づくりなどについて座学、野外活動を通じて学び、この学びを契機として、いつまでも元気で社会とつながる人づくりの活動。併せて健康長寿、社会づくりに寄与することを目標に運営する。なお、この活動について千葉県、千葉市、船橋市教育委員会の後援を得ることができたことを契機に幅広い広報の推進及び更なる後援団体の拡大に努める。

1. 本科・専攻科の円滑な運営
2. シニア自然大学の同窓会（房総自然の会）との連携及び広く県民に周知するための説明会およびオープンキャンパス等の実施
3. 卒業生が組織する「古民家ろくすけの会」との連携による援農など地域活性化への寄与
4. 佐倉市に開設した「体験農園 in 岩名」における農業実践のサポート
5. 会員校と連携した自然体験活動指導者（NEALリーダー）としての活躍の場づくり
6. 事務局の充実と運営スタッフの後継者育成

■ヤックス自然学校事業（株式会社千葉薬品受託事業）

企業の社会的責任の一環として、社会の動きを素早くキャッチし、安心安全で楽しい自然体験活動を継続的に実施。

1. 年間を通じて魅力あるプログラムを実施し、参加者数延べ4,200人、会員登録者数400人、リピーター率50%を目指す
2. ホームページやSNS等を活用した集客と活動報告の充実
3. コミュニケーションを意識した子どもプログラムや親子プログラムの実施
4. NEALリーダー養成事業の継続（資格取得）と将来、教職員を目指すキャンプリダー（大学生）の人材育成

■総務・広報部

・広報事業

1. ホームページやSNSを活用した情報発信
2. 新聞社・新聞記者等マスメディアへの積極的な取材依頼
3. 営業ツールを用いた企業・学校等への訪問営業
4. 都市部大規模イベントへの出店による活動のPR